



SteelEye DataKeeper for Windows

Version 7 Update 2 Maintenance 1

リリースノート

2011年5月

Copyright ©2011
By SIOS Technology Corp.
San Mateo, CA U.S.A.
All Rights Reserved

**本製品をインストールまたは使用する前にこの文書
を確認してください!**

本ドキュメントには SteelEye DataKeeper プランニングおよびインストールの手引きには含まれていない、Datakeeper のインストール前からインストール後にかけて必要な情報が含まれています。

This document and the information herein is the property of SIOS Technology Corp. (previously known as SteelEye® Technology, Inc.) and all unauthorized use and reproduction is prohibited. SIOS Technology Corp. makes no warranties with respect to the contents of this document. SIOS Technology Corp. reserves the right to revise this publication and make changes to the products described herein without prior notification.

本ドキュメントおよびオンラインマニュアルの最新情報については以下のwiki をご参照ください。

<http://wiki.us.sios.com/Documentation>

目次

目次	2
はじめに	3
SteelEye DataKeeper for Windows v7 の新機能	3
製品定義およびプラットフォーム	5
製品要件	5
Windows 2008 での要件	5
既知の問題	6

はじめに

SteelEye DataKeeper for Windows は、WANもしくはLAN経由でホストベース、ブロックレベルのデータのレプリケーションを行うソフトウェアです。1対1、複数対1、1対複数のレプリケーションターゲットが存在するような様々な構成がサポートされます。

SteelEye DataKeeper for Windows v7 の新機能

機能	説明
本バージョンでの新機能(DataKeeper Version 7.2.1)	
64ビットパフォーマンスモニターカウンター	SteelEye DataKeeper パフォーマンスモニターカウンターは、64ビットおよび32ビットの両方のパフォーマンスモニターアプリケーションで有効です。
LifeKeeper 7.2.1の互換性	DataKeeper 7.2.1は、LifeKeeper 7.2.1と互換性があります。
セクタサイズの強化	512バイトと同等でないセクタサイズをサポートします。
ドキュメンテーションのwiki化	SteelEye DataKeeper for Windows のインストール手順、設定、管理、トラブルシューティングは、現在wikiのSteelEye DataKeeper for Windows Technical Documentation セクションに記載されています。
DataKeeper Version 7.2での新機能	
Microsoft Data Protection Manager のサポート	DataKeeper 7.2 は、Windows Server Failover Clustering 2008 上のMicrosoft Data Protection Manager 2010をサポートします。
Microsoft System Center Virtual Machine Manager のサポート	DataKeeper 7.2 はMicrosoft System Center Virtual Machine Manager をサポートします。
WSFC で DataKeeper ボリュームリソースを自動的に作成	DataKeeper 7.2 は、ミラーの作成中に自動的にリソースをWSFC Available Storage に割り当てます。
EMCMD コマンドの追加: CHANGEMIRRORENDPOINTS	DataKeeper 7.2 は、Datakeeper が保護するボリュームを別のネットワークロケーションへ移動させるコマンドを追加しました。
DataKeeper オンラインヘルプの強化	DataKeeper 7.2 のオンラインマニュアルに“Extending a Traditional 2-Node WSFC Cluster to a Third Node via DataKeeper”を追加しました。

機能	説明
LifeKeeper 7.2 の互換性	DataKeeper 7.2 は、LifeKeeper 7.2と動作します。
File Server Resource Manager のサポート	DataKeeper 7.2 およびそれ以降は Windows Server 2008 R2上のFile Server Resource Managerを使用したディスククォータをサポートします。
DataKeeper Version 7 Update 1 Maintenance 2 での新機能	
2ノード以上のMSCS/WSFC クラスタをサポート	Cluster Edition 7.1.2から DataKeeper は、2ノード以上のMSCS/WSFC クラスタをサポートします。
共有ストレージと複製ストレージの混在をサポート	Cluster Edition 7.1.2から DataKeeper共有ストレージと複製ストレージクラスタの混在をサポート
DataKeeper Version 7 Update 1 Maintenance 1 での新機能	
Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2008 R2* のサポート	DataKeeper v7.1.1 およびそれ以降はMicrosoft System Center Virtual Machine Manager 2008 R2* をサポートします。 *注意: Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2008 は、SteelEye DataKeeper Cluster Edition v7.1.2 との互換性はありません。(詳細は 既知の問題を参照してください。)
DataKeeper Version 7 Update 1での新機能	
1対複数のレプリケーション構成	DataKeeper 7.1 およびそれ以降では、1対複数のレプリケーション構成をサポートします。
DataKeeper Version 7での新機能	
Windows 2008 R2 のサポート	DataKeeper Version 7 はWindows 2008 R2 をサポートします。
Windows Server 2003 MSCS のサポート	DataKeeper Version 7 はWindows Server 2003 MSCS でのマルチサイトクラスタをサポートします。
File Share Resources type support	DataKeeper Version 7 はWSFC でのファイル共有タイプをサポート
SteelEye LifeKeeper v7 との連携	DataKeeper Version 7 は、LifeKeeper v7と連携します。
日本語化	DataKeeper Version 7 は、日本語へローカライズされています。

製品定義およびプラットフォーム

製品要件

重要: SIOS Technology Corp. はユーザーに対して DataKeeper が起動しているすべてのサーバ上でローカルアドミニストレータ権限をもつドメインアカウントを使用することをお勧めします。ローカルアカウントを使用している場合は、ユーザー名およびパスワードは DataKeeper が起動しているすべてのサーバ上で一致していなければなりません。この勧告は、すべてのエディションおよびプラットフォームに共通しています。

製品	オペレーティングシステム	追加のソフトウェア
DataKeeper (サーバーコンポーネント)	Microsoft Windows: <ul style="list-style-type: none">Server 2003 R1 および R2Server 2008 R1 および R2	n/a
DataKeeper (ユーザーインターフェース)	Microsoft Windows: <ul style="list-style-type: none">Server 2003 R1 および R2Server 2008 R1 および R2VistaXPWindows 7	Microsoft .Net Framework 3.5 SP1 MMC 3.0 (以下からダウンロードしてください。 http://support.microsoft.com/kb/907265)

リスト全ての OS プラットフォームの 32 および 64 ビットバージョン (x86 および x64, ただし Itanium を除く) がサポート対象です。

Windows 2008 での要件

- Windows 2008 に SteelEye DataKeeper をインストールする際に、インストーラで以下に記述されているシステム設定の変更をするかどうかを聞かれます。 インストーラで

これらの設定を行わなかった場合は、インストール完了後に手動で設定変更をする必要があります。

- **Windows ファイアウォール** (追加情報につきましては**SteelEye DataKeeper プランニングおよびインストールの手引き**をご参照ください。)
- **Distributed Link Tracking Client** を**無効**にする必要があります。

さらに、**Windows server 2008** がドメイン参加しない場合は、ローカルセキュリティポリシーの設定を"**ネットワークアクセス: Everyone** アクセス許可を匿名ユーザーに適用する"を有効にする必要があります。サーバがドメインである場合は、この設定は必要ありません。

既知の問題

事象: SteelEye DataKeeper v7.2の評価版の利用中、新しいライセンスキーが使用されていない場合にエラーが発生します。2011年1月1日以前の評価キーは本リリースでは適用できません。

推奨されるアクション: 新しいライセンスキーを取得してください。ライセンスキーマネージャを再起動し、新しい、適切にフォーマットされたライセンスキーを適用してください。

事象: Hyper-Vホストクラスタにおいて、新しくNICを追加やVLAN IDの設定の変更などをバーチャルマシンに対して行った場合、エラーが発生する。

推奨されるアクション: このような変更を実施するために、フェールオーバークラスターからバーチャルマシンを削除し、既存のVHDファイルに基づいたHyper-V Manager (フェールオーバークラスターではない)を使用してバーチャルマシンを準備し記述された変更を行い、バーチャルマシンをクラスタに戻してください。

事象: Windows Failover Clusteringにおいて、DataKeeper ボリュームリソースを設定する際にMS DTCをオンラインにすることができない。

Log Name: System
Source: Microsoft-Windows-FailoverClustering
Date: <Date Time>
Event ID: 1146

Task Category: Resource Control Manager

説明: このクラスター リソースのホスト サブシステム (RHS) が予期せず停止しました。再起動が試みられます。これは、通常、リソース DLL の問題が原因です。リソース DLL、問題とレポート、リソースの仕入先に原因の特定します。

オリジナル(英語)のイベントログメッセージ

Log Name: System
Source: Microsoft-Windows-FailoverClustering
Date: <Date Time>
Event ID: 1146

Task Category: Resource Control Manager

Description: The cluster resource host subsystem (RHS) stopped unexpectedly. An attempt will be made to restart it. This is usually due to a problem in a resource DLL. Please determine which resource DLL is causing the issue and report the problem to

the resource vendor.

推奨されるアクション: 以下のKB 記事に記述されているMicrosoft Hotfix をダウンロードおよびインストールしてください。: <http://support.microsoft.com/kb/978476>. これにより、MS DTC リソースをDataKeeperボリュームリソースで正常に処理できるようになります。

事象: Windows2008 R2 SP1のフェールオーバークラスター (WSFC) 使用時に、標準的な1対1の2ノードクラスターをレプリケーションされた共有ストレージを使用した3ノードクラスターへ拡張する際の手順が変更されました。DataKeeper共有ボリュームを保有しているノードを追加するために WSFC mmc GUI を使用しないでください。

推奨されるアクション: WSFC の使用時にDataKeeper ボリュームを伴う追加ノードは、WSFC コマンドラインツール"cluster /add /node:<standby node name> を使用することでのみ安全に既存のクラスターへ追加することができます。これは大変重要なことです。詳細につきましては「Extending a Traditional 2-Node Cluster to a Shared-Replicated Configuration」の項目をご参照ください。

事象 : DataKeeper 64ビットのパフォーマンスカウンターをインストールするといくつかのシステムにおいて64ビットパフォーマンスカウンターの選択が無効になります。ほとんどのシステムにおいて本事象は発生しませんが、本事象が発生すると64ビットのPerfmonユーティリティの"+" (カウンターの追加)ボタンが有効になりません。

推奨されるアクション : 以下のパスでDataKeeper 64ビットパフォーマンスカウンターを削除すると本事象は解消されます。: `C:\windows\system32\ExtMirrPerf.dll`その後64ビット Perfmonユーティリティを再度開始してください。DataKeeper 32ビットパフォーマンスカウンターは使用可能です。